らび・しけちしだ・かなわらび・いはひめわらび・きじのをしだ・やまいぬわらび等ガ叢生シ、ソノ中ニほそばいぬわらびガ相當多ク繁茂シテヰル。其等ヲ見ルト殆ンド Gemma ヲ持チ、或ルモノハ小苗トナツテ、大キク生長シテヰル。カカル事實ガほそばいぬわらびニ生ズルコトハ、文獻其他ニ於テ報告ヲ見タコトガナイノデ、非常ニ珍ラシイト思ヒ、此處ニ報告シテ大方ノ賢明ナル判斷ヲ待ツモノデアル。

扨此等ヲ更ニ詳細ニ觀察シタ結果、Gemma ハ葉面ノ表側ニ生ジ、且ソノ中軸並ビニ側軸(羽片)ノ何レニモ生ジ、1個乃至3個カラ多イ時ハ6個モ生ズル。コノ Gemma ノ生長ノ順序ハ圖ニ示シタ通リデ、始メ軸部ニ僅カニ突起ヲ生ジ、ソレニ細毛ヲ密生スル。ソレガ大キク生長シテ二ツニ分レ、次イデ三ツニ分レテ少サイ嫩芽トナル。ソノ頃同時ニ根ガ發生スル。圖ニ示ス如ク根ハ Gemma ノ根本ノ部ヨリ出ル。斯カル根及嫩芽ハ生長シテ大キクナルガ、コノ際、葉面ノ先端ニ生ジタルモノハ大抵地表面ニ達シ、根ハ地中深ク入リテ、根毛多數生ジ、水分ヲ吸收シテ大キク生長スルノモアルシ、又地表面ニ達シナイモノデモ、大キク生長シテヰル。

コノ Gemma ノ發生スルノハ胞子ガ生ズル初期デアル。即チ胞膜ガ出來タバカリデ、中ノ胞子モ未ダ青イ頃ニ發生スル。然シ之ガ果シテ何處迄生長ヲ續ケルカ、即チ或ル程度迄生長ヲ續ケテ枯死スルノカ、或ハ之ガ1個ノ新植物トシテ本植物ト獨立シテ生長ヲ續ケルカハ今後觀察ヲ續ケテ行カネバ分ラナイ。

然シテ、斯カル Gemma ハコノ地點ノミニ限ツテ生ズルカ否カヲ檢シタトコロ、同ジク廣島縣水内村惠下谷ニ於テ採集シタほそばいぬわらびニモ、カカル Gemma ガ生ジテヰル。之ヲ以テ見ルニ、カカル性質ハ後天的ノモノデナク先天的ニほそばいぬわらびニアル樣ニ思ハレル。尙カカル Gemma ノ生ズル羊齒トシテハ、緒方正資氏著ノ「日本羊齒圖集」ノ Pl. 83 ノおきなはきじのを及 Pl. 107 ノおほとらのをしだニ於テ示サレテヰル。又 Gemma トイフ名稱モ、コノ書ヨリ引用シタモノデアルコトヲ附記シテ置ク。（森　田　茂）

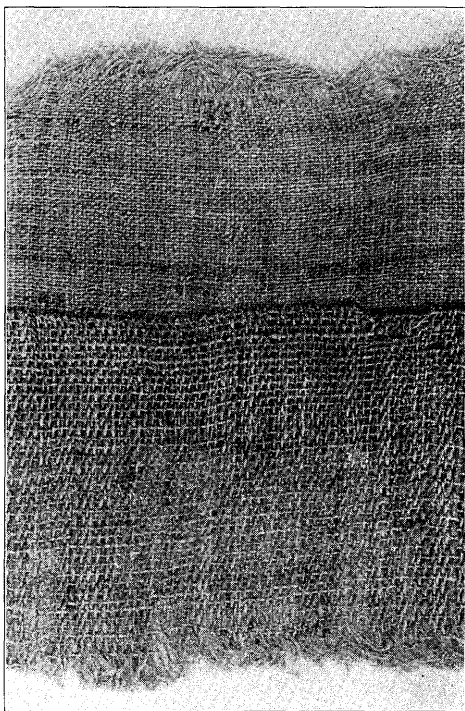
○再ビものし織ニ就イテ

本誌13卷7號ニ載セタものし織ニ關スル筆者ノ記事ヲ見タ三宅島ノ林憲氏ハ親切ニモ次ノヤウナ手紙ヲ寄セラレタノデ同織物ニ關スル大體ノ沿革ガ判明シタ。玆ニ再ビ本誌上ヲ藉リテ同氏ノ手紙ノ全文ヲ掲ゲ諸賢ノ參考ニ供スル。「植物研究雜誌第13卷7號ニ本島特產ものし織ニツキ御記載ガゴサイマシタガ本年春大島支廳三宅島出張所ノ千葉技手カラものし織ノ文獻、材料、其他ヲ聽カレタ事ガアリ、ソレガ一部本文ノ材料トナツテヰルカニ見エルノデ、責任(?)ヲ感ジ小生ノ知ル限リヲ御參考マデニ申上ゲタイト存ジマス。文獻トシテハ今迄ニ下記ガ唯一ノモノデシタ。

伊豆七島圖繪（明治 35年8月5日發行　風俗畫報第254號增刊)植物の部。をり、此草苧麻の同類なり此纖維にて織りたる布をものし織と云ふ。此布 20-30 年の久しきを保つと云ふ。三宅島の坪田村の特產なり。

苧麻　諸島ニ産ス黄麻ト用ヲ同ウスレド島民之ヲ知ラズ。

（同誌編輯部　客員　小林　茂　部員 山下重民　橋本　繁　内藤　誠　佐藤靜夫）

方言をりハしまながばやぶまをヲ云フノデスカラ、コレニヨルト正ニしまながばやぶまヲ以テ織ツタトモノト思ハレマス。先頃坪田村ヘ出向（當村—神着村ヨリ約 3 里）ものし織ヲ織ツタト云フ植松とら氏ニ親シク尋ネテ、ソノ誤ナキヲ認メル事ガ出來マシタ。島民モをりニツイテハ確實デナク人ニヨツテハからむしヲ指スノデ混同サセラレル場合ガアルノデス。しまながやぶまをハ本島中到ルトコロニ自生致シマス(からむしハ村落附近ノ路傍ニ多シ)。古クカラ之ヲ陰濕地ニ植エ或ハ自生品ヲ 6-7 月頃ノ開花前ニ刈リ取リ葉ヲコキ落シ束ネテ爐ノ天井ニ乾カシテ後、直射日光ニ當テ槌デ叩イテ皮ヲ剝グ。在中ノモノハ之デス。再ビ之ヲ日ニ乾カシ細裂シテ糸ニ紡ギ坪田一村ノ家婦悉ク機ニ織リ立テタト申シマス。コノ方法ニ關シテハ他ノ二三ノ人ニモキイテ見マシタガ變リハゴザイマセンデシタ。ソシテ他村ニ於テハ皆無ダツタト云フノモ面白イ現象デス。島民ハ一般ニ怠惰デスガ此ノ村ダケハ昔カラ勤勉デ(働ク爲ニ墮胎ノ行ハレタ村デス)今モ本島五ケ村中最富有ノ村トナツテ居リマス。織物ノ色ハ出來上リ淡褐色（實物御參照）、好ミニ從ヒ紺屋ニ賴ンデ適當ニ染メ夏ノかたびらニ仕立テタモノデシタ。染色ハ鐵無地或ハ紺ガ多クソノ丈夫サヲ强調シテ村人ハ次ノ如ク申シマス“山ヘ着テ行ツテ木ノ枝ニ引ツカカルト着物ハ切レズニ枝ガ折レル”ト。紺屋ハ本島伊豆村ニ一軒アリ或ル人ハ江戸(東京)デ染メテ貰ツタモノデシタ。近來本島ハ石花菜ノ產出年額十數萬圓ニ達シ、殊ニ坪田村ニ於テ良質且ツ多量ナ爲、老婆ト雖モ日當數圓ニ上リ、面倒多キものし織ナド織ツテヰテハ割ニ合ハズ、且ツ絹物ノ安イ時世ニアマリ高ク賣ル譯ニモ行カズ、現在デハ全ク織ル人モゴザイマセン。實物ハ往時ノ殘品デス。織リ始メタ時代ハ不明、盛ダツタノハ明治 20-30 年代迄ラシク當時ニハ石花菜ノ採取モ一夏數日ニ過ギズ、米飯ノ代ニ甘薯ヲ食ヒ、御茶ノ代リニ濁酒ヲ飲ンデヰタ泰平時代ダツタノデ、用事ハナシ冬期所謂稼ギハナシ止ムナク自家用ニカウシタモノヲ織ツテヰタト云フ譯デス。

ものし織ノ 2 種（實大）

要スルニ現在ものし織ハ採算ガトレヌノデ七島產業トシテ何ラカノ方法ニ出デヌ限リ發展

見込ハ覺束ナイト存ゼラレマス。

其後ものし織ノ起原ニ就イテハ越後ノ流人ノ傳ヘデ織リ始メタルモノト話ヲ聞キマシタ。本村淺沼恒太郎氏ノ七島文庫ニ求メ得ルト思ヒマスカラ判明次第御知ラセ申上マス。越後上布ガからむしヲ原料トスルニ鑑ミ、アリ得ベキ事ダシ且ツ島民ガからむし、しまながばやぶまをヲ混同スルアタリ些カ興アル事ダト思ヒマス。」林氏ノ御厚意ニ謝意ヲ表ス。

(佐 竹 義 輔)

○檜山氏採集ノ新品二三

野外植物研究會ノ 檜山庫三氏ノ 採集品中ニ次ノ新品ガアツタ。

みやまざくら (*Prunus Maximowiczii* RUPRECHT) ハ元來花柱ノ基部ニ毛ノアルモノデ記載サレタモノデアルガ、同氏ガ甲斐三ツ峠デ採ツタモノハ花柱ニ毛ガ無イノデ**とみやまざくら** (*Prunus Maximowiczii* var. **gymnopus** HONDA, var. nov. Stylus toto glaber.) トシテ區別スベキモノデアル。三ツ峠以外ニモ產スル。

同ジク三ツ峠ニハすひかづら (*Lonicera japonica* THUNBERG) ノ花ノ紫色品ガアルガコレモ**むらさきすひかづら** (*Lonicera japonica* f. **purpurella** HONDA, form. nov. Flores purpurascentes.) トシテ區別スル。

最後ニ越後苗場山ニわうれん (*Coptis japonica* MAKINO) ノ綠花品ガアルノデコレニ**みどりわうれん** (*Coptis japonica* form. **viridiflora** HONDA) ト命ジタ。

標本ハ全部東大植物學教室ニ寄贈シテ貰ツタ。

(本 田 正 次)

○Microstegium dilatatum KOIDZUMI ガ上總鹿野山ニアル

花序軸ヤ花梗ガ扁平擴大シ、小穗ニ毛ヲ有スルコト、葉ニモ毛ガアルコト等デ新種トシテ記載サレタ *Microstegium dilatatum* KOIDZUMI ト思ハレルモノガ、檜山庫三氏ニヨツテ上總鹿野山ノ裏山デ採集サレタ。原記載 (G. KOIDZUMI: Floræ Symbolæ Orientali-Asiaticæ, p. 38, 1930) デ見ルト、產地ハ橫濱 (MAXIMOWICZ 採集) 及ビ東京 (FAURIE 採集) トアルノデ、何レハ關東方面ノモノデアラウガ今迄見當ラナカツタモノデアル。和名ガ未ダ發表サレテ居ナイ樣ダカラ、此ノ際ニ於テ**けささがや**ト新稱シタイ。

(本 田 正 次)

○松茸ノ一畸形

昭和12年ノ秋、京都山科產ノ松茸ニ奇妙ナ畸形ガアツタカラ寫眞ニ撮ツテ見タ。第1圖ハ菌ノ蓋ノ上ニ更ニ1個小サナ蓋ガ倒サニクッツイタモノデ、植物畸形トシテハ餘程風變リ